

2027年3月期 第1四半期 決算説明資料

株式会社サニックスホールディングス
2026年8月17日

1. 2027年 3 月期 1 Q 決算概況	P. 2
2. 2027年 3 月期 1 Q セグメント別概況	
①住環境領域	P. 11
②エネルギー領域	P. 16
③資源循環領域	P. 20
3. トピックス	P. 26
4. 2027年 3 月期 通期連結業績見通し	P. 31
5. 参考資料	P. 40

2027年 3 月期 1 Q 決算概況

前年同期比 増収・増益

エネルギー領域では、太陽光発電市場の環境変化や競争激化により減収・減益となったものの、住環境領域および資源循環領域がそれぞれ好調に推移したことから、前年同期で増収・増益を達成。対上期計画は、売上高・営業利益ともに50%超にて推移

(百万円)	2026/3期 1 Q 実績	2027/3期 1 Q 実績	前年同期差異	前年同期比	2027/3期 上期 計画	進捗率
売上高	10,531	11,127	+ 595	105.7%	22,178	50.2%
売上総利益	3,267	3,993	+ 725	122.2%	7,911	50.5%
営業利益	△ 343	339	+ 682	—	461	73.4%
経常利益	△ 539	280	+ 819	—	335	83.7%
最終利益	△ 640	126	+ 766	—	217	58.2%

2027年3月期1Q セグメント別概況

住環境領域

売上高
構成比 **36.8%**



戸建・集合住宅等のトータルメンテナンスに関する事業

- 戸建住宅向けサービス(HSE)事業
- 法人・集合住宅向けサービス(ES)事業

エネルギー領域

売上高
構成比 **12.7%**



企業・法人向け太陽光発電システム等の販売、施工、メンテナンス等に関する事業

- 法人向け太陽光発電事業

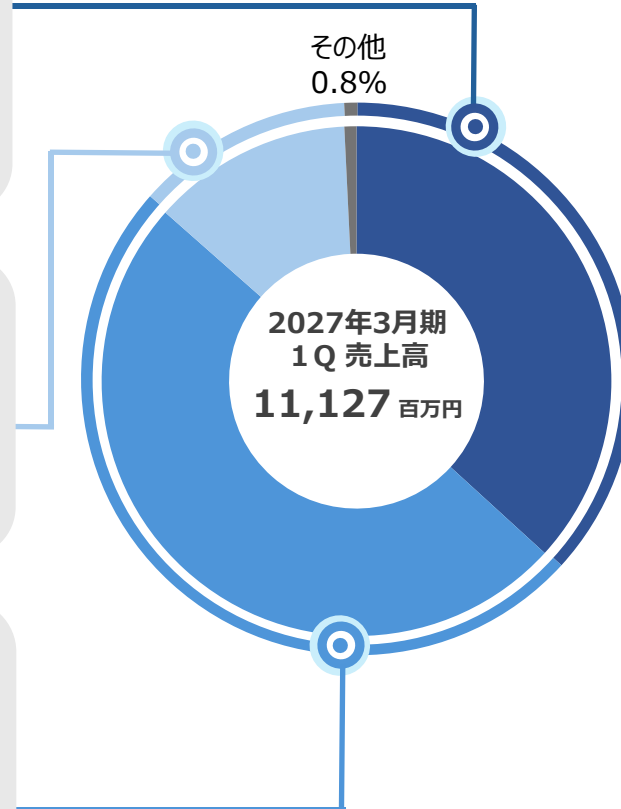
資源循環領域

売上高
構成比 **49.7%**

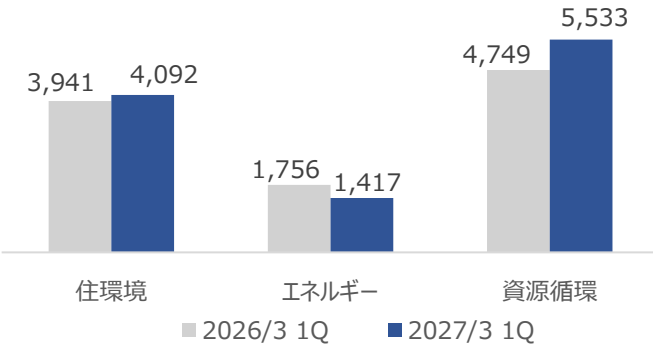


廃プラスチックの再資源化や廃液の浄化・燃料製造等に関する事業

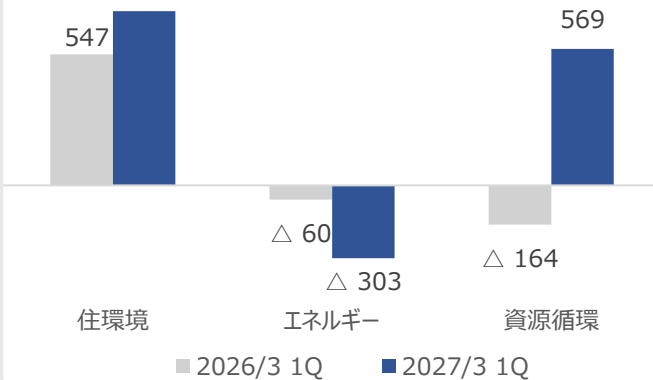
- プラスチック事業
- 廃液処理事業
- 発電事業
- 埋立処理事業
- 新電力事業



売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)



2027年3月期1Q セグメント別概況

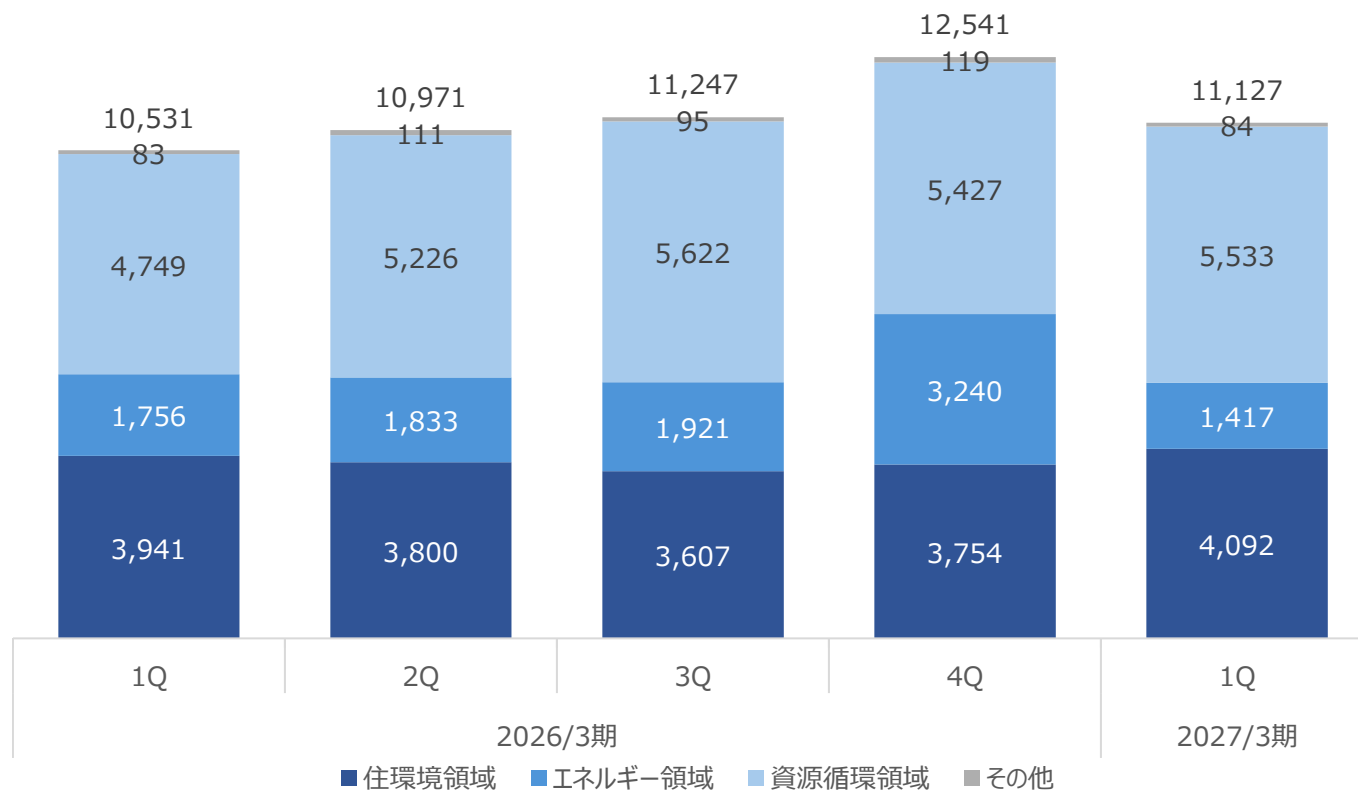
			対前年同期比	
住環境領域	売上高 営業利益	4,092 百万円 726 百万円	(+3.8 %) (+32.7 %)	2026年6月、新規エリアへ進出（仙台支店（宮城県仙台市）開設） 営業力および顧客基盤を活かした既存事業の拡大により、戸建住宅向けサービス事業における家屋の補修・補強工事やリフォーム工事が好調に推移したことから増収・増益を達成
エネルギー領域	売上高 営業利益	1,417 百万円 △303 百万円	(△19.3 %) (△242 百万円)	法規制や要求水準の厳格化等による太陽光発電市場の環境変化や競争激化により、減収・減益。引き続き、案件ごとの採算性管理の徹底およびコストの見直し等による事業構造の転換を図る
資源循環領域	売上高 営業利益	5,533 百万円 569 百万円	(+16.5 %) (+734 百万円)	発電事業において、2026年4月に実施した対策工事が奏功し、安定稼働に寄与。 安定稼働による電力販売量の増加に加え、中東情勢等による影響により卸電力取引市場への売電単価が上昇したことから増収。 利益面では、発電事業の増収による増益効果に加えて、前期に法定点検を実施したことおよび安定稼働により、修繕コストの減少やプラ燃料在庫の改善が寄与し増益を達成
その他/本社費用	売上高 営業利益	84 百万円 △654 百万円	(+1.5 %) (+11 百万円)	各事業会社への人員の再配置等により本社費用減少。 引き続き、各事業の成長と利益の最大化を図るとともに、次なる成長の柱となる新規事業の創出を積極的に推進

2027年3月期1Q セグメント別概況

(百万円)	2026/3期 1Q 実績	2027/3期 1Q 実績	前年同期差異	前年同期比	2027/3期 上期 計画	進捗率
売 上 高	10,531	11,127	+ 595	105.7%	22,178	50.2%
住 環 境 領 域	3,941	4,092	+ 150	103.8%	7,943	51.5%
エ ネ ル ギ ー 領 域	1,756	1,417	△ 339	80.7%	3,531	40.1%
資 源 循 環 領 域	4,749	5,533	+ 783	116.5%	10,492	52.7%
そ の 他	83	84	+ 1	101.5%	211	40.1%
営 業 利 益	△ 343	339	+ 682	—	461	73.4%
住 環 境 領 域	547	726	+ 178	132.7%	1,092	66.5%
エ ネ ル ギ ー 領 域	△ 60	△ 303	△ 242	—	△ 178	—
資 源 循 環 領 域	△ 164	569	+ 734	—	937	60.8%
その他 / 本社費用	△ 665	△ 654	+ 11	—	△ 1,390	—

2027年3月期1Q売上高（四半期推移）

(百万円)



対前年同期比
+5.7%増

住環境領域 **+3.8%増**

エネルギー領域 △ **19.3%減**

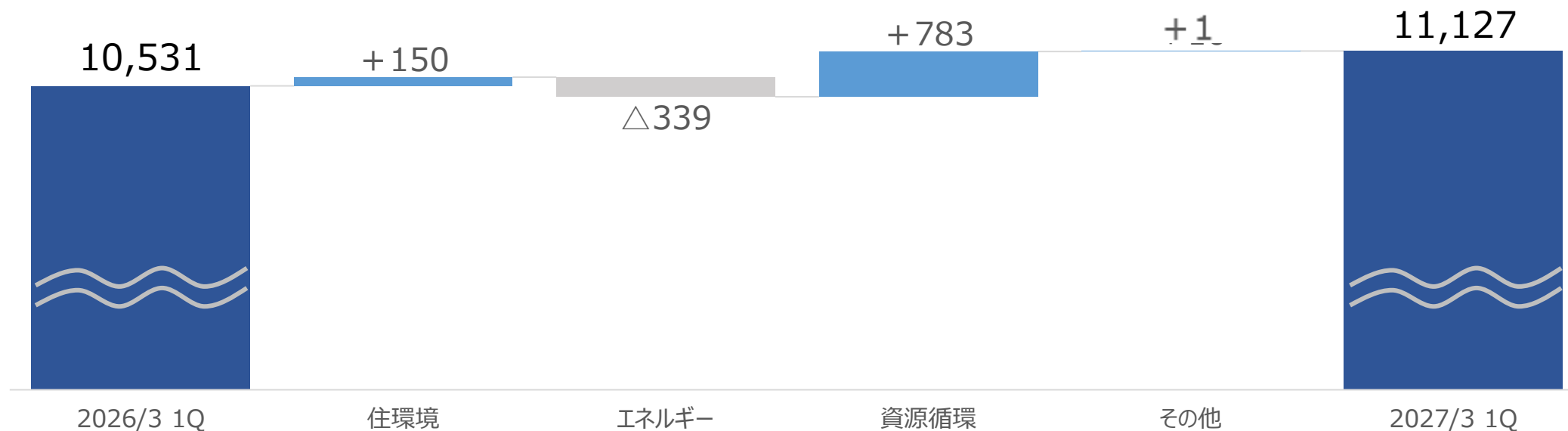
資源循環領域 **+16.5%増**

2027年 3 月期 1 Q 売上高 対前年同期増減分析

売上高

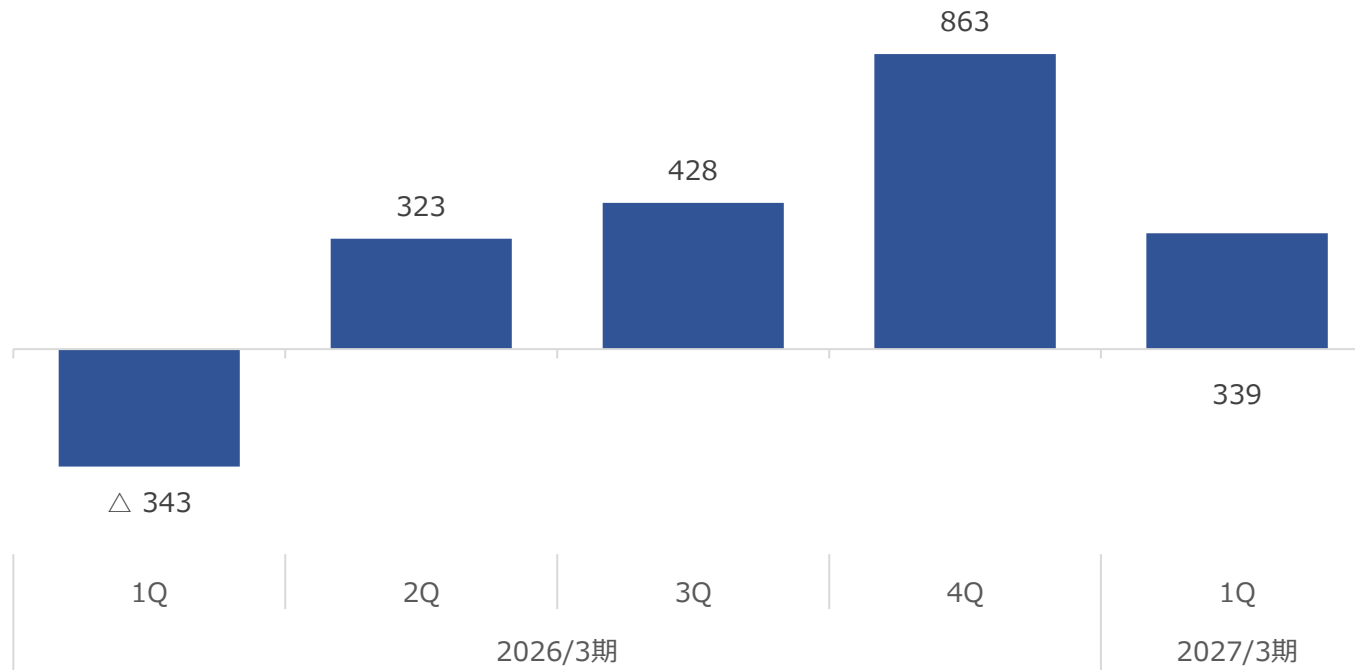
対前年同期 **+ 595** 百万円

(百万円)



2027年3月期 1Q 営業利益（四半期推移）

(百万円)



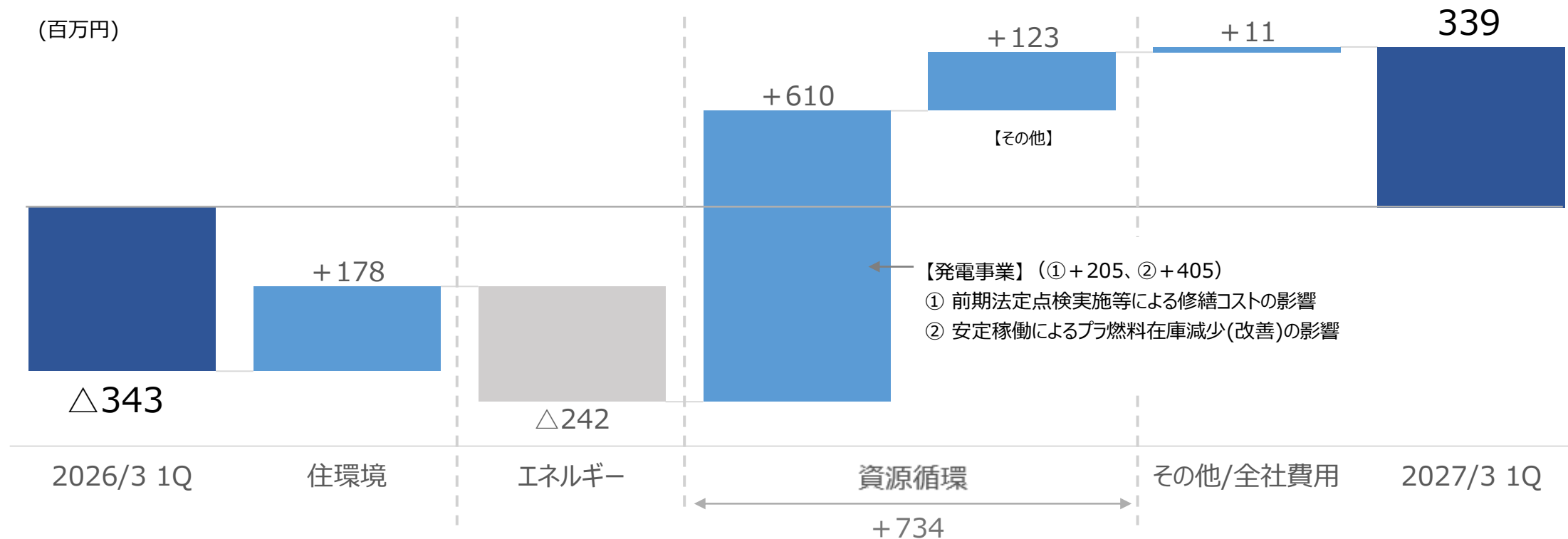
**対前年同期
+ 682 百万円**

2027年3月期1Q 営業利益 対前年同期増減分析

営業利益

対前年同期 **+682** 百万円

(百万円)



1. 2027年3月期1Q決算概況	P. 2
2. 2027年3月期1Qセグメント別概況	
①住環境領域	P. 11
②エネルギー領域	P. 16
③資源循環領域	P. 20
3. トピックス	P. 26
4. 2027年3月期 通期連結業績見通し	P. 31
5. 参考資料	P. 40



住環境領域

快適な住環境を次世代へつなぐ

- 戸建住宅向けメンテナンス
- 集合住宅向けメンテナンス
- 住宅用太陽光発電設置
- 衛生管理

サニックスグループでは、“予防医学（＝未然に防ぐという思想）”の見地から、祖業のシロアリ消毒事業をスタートし、戸建・集合住宅等のトータルメンテナンスを展開。さらには、太陽光発電やリフォーム、都市空間の衛生管理まで、世代を超えて受け継がれる、快適で衛生的な暮らしを実現します。

戸建住宅向けサービス(HSE)事業

シロアリの習性を熟知したスタッフが、予防から駆除まで、適切に対処。豊富な経験と実績で培われた専門技術とノウハウ、万全のアフターサービスにより、大切なマイホームをシロアリの被害から守ります。



白蟻防除施工



床下・天井裏換気システム

戸建て住宅向け太陽光発電の普及を目指して、環境にも家計にも優しい生活を実現します。また、自家消費型太陽光発電のニーズが高まるなか、蓄電池の導入による電気の柔軟な使い方をご提案しています。



住宅用太陽光発電システム



蓄電池

法人・集合住宅向けサービス(ES)事業

給排水設備メンテナンスの効率的・一元管理を実践。主力商品である防錆装置などにより、配管内のサビの発生・進行抑制による配管の長寿命化や、スケール・油汚れの除去・付着抑制によるトラブルの解決を図ります。

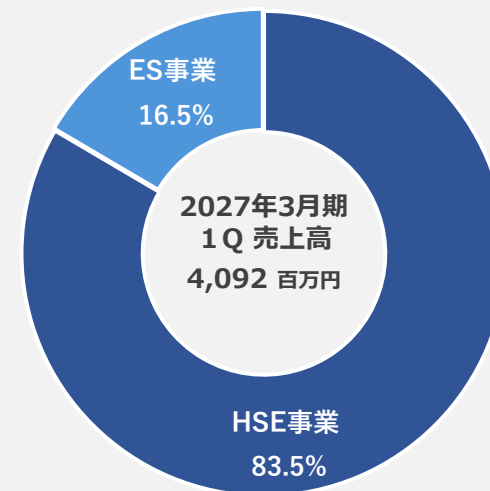


ビデオスコープによる水道管検査



害虫防除施工

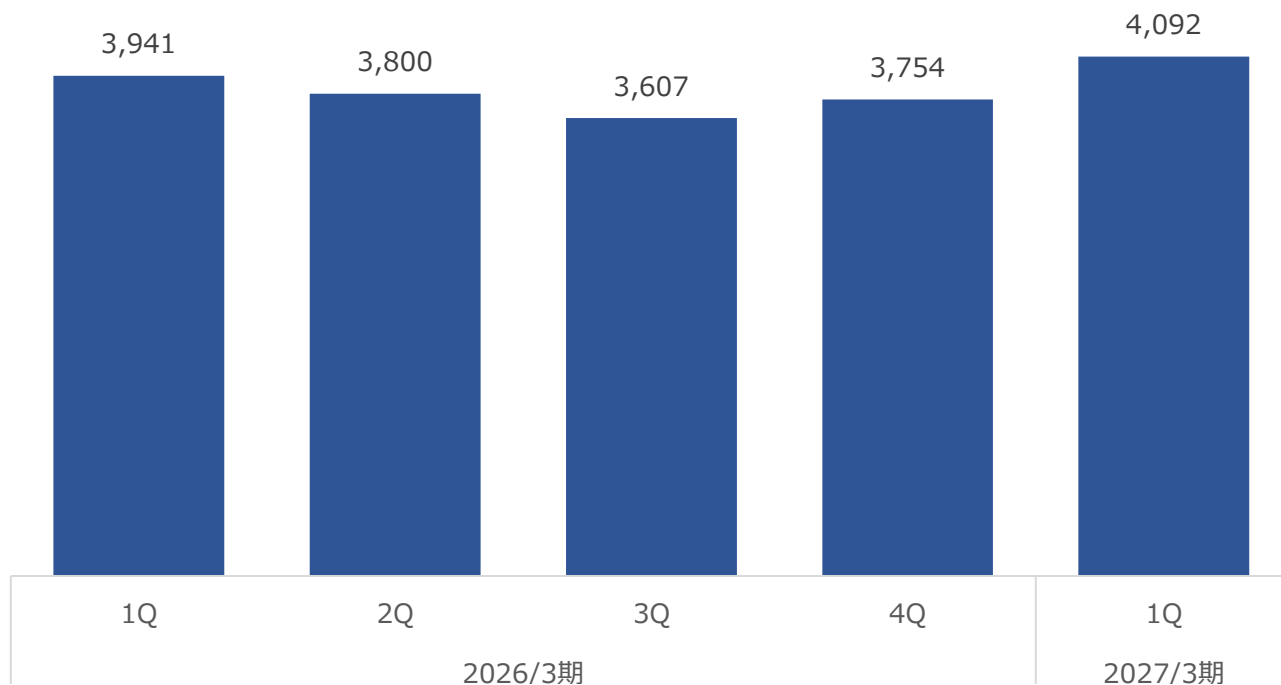
住環境領域 売上高構成比



住環境領域 | 売上高

2026年6月、新規エリアへ進出（仙台支店（宮城県仙台市）開設）。
営業力および顧客基盤を活かした既存事業の拡大により、戸建住宅向けサービス事業における家屋の補修・補強工事やリフォーム工事が好調に推移したことから、前年同期 + 150百万円の増収

(百万円)

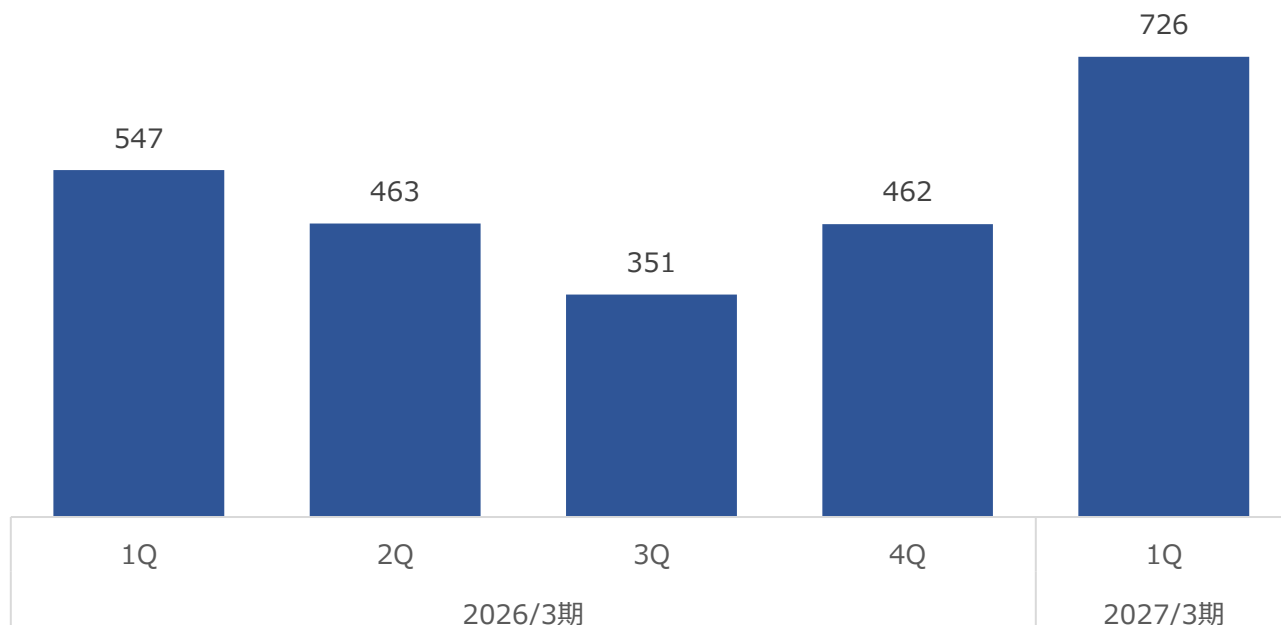


対前年同期比
+3.8%増

住環境領域 | 営業利益

主力事業である戸建住宅向けサービス事業において、
高水準の粗利率を維持しつつ事業成長を牽引したことから、前年同期 + 178百万円の増益

(百万円)

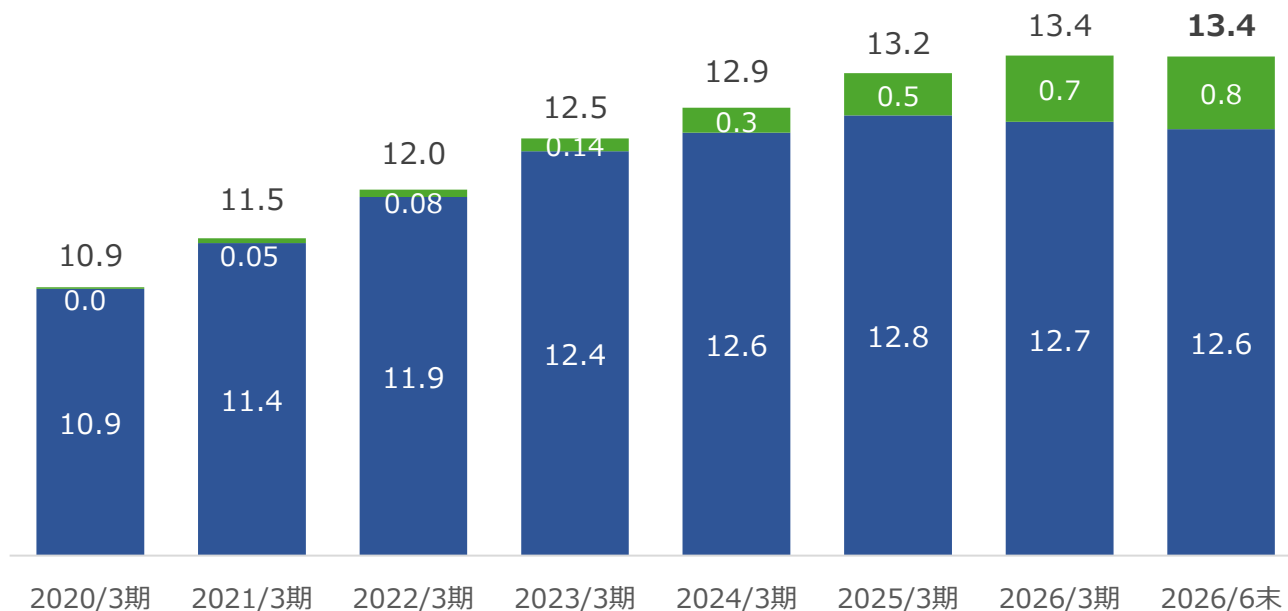


対前年同期比
+32.7%増

住環境領域 | 顧客件数

2020年3月期以降、顧客基盤は約 3 万件増加

(万件)



強固な顧客基盤

13.4万件

(2026年6月末現在)

※顧客件数は、従来の保証契約継続中の顧客（訪販顧客数）に加えて、法人ルート顧客数（買取再販消毒や建前消毒等）を合計して記載しております。

1. 2027年3月期1Q決算概況	P. 2
2. 2027年3月期1Qセグメント別概況	
①住環境領域	P. 11
②エネルギー領域	P. 16
③資源循環領域	P. 20
3. トピックス	P. 26
4. 2027年3月期 通期連結業績見通し	P. 31
5. 参考資料	P. 40



エネルギー領域

環境負荷の低いエネルギーを普及拡大させる

- 法人向け自家消費太陽光発電設置
- 既設太陽光発電メンテナンス
- エネルギー事業者向け太陽光電源開発

サニックスグループでは、お客様のニーズに合わせて、最適な太陽光発電システムのかたちをご提案、導入からメンテナンスまで、環境経営の推進をサポートするとともに、再生可能エネルギーの普及拡大を図ります。

法人向け太陽光発電事業

工場の屋根やビルの屋上等の有効利用を促進。法人向け自家消費型・第三者所有型太陽光発電システムを中心に、太陽光発電によるコスト（電気代）削減、災害対策、環境経営をサポート。ご提案から設計、施工、アフターメンテナンスまで、トータルに提供します。



自家消費型/第三者所有型

【第三者所有型(PPAモデル)の仕組み】

PPA事業者が、お客様の敷地や屋根に、PPA事業者の費用負担により太陽光発電を設置(PPA事業者が所有・維持管理)。この太陽光発電で発電された電気を、PPA事業者が、お客様へ有償で供給する仕組みです。



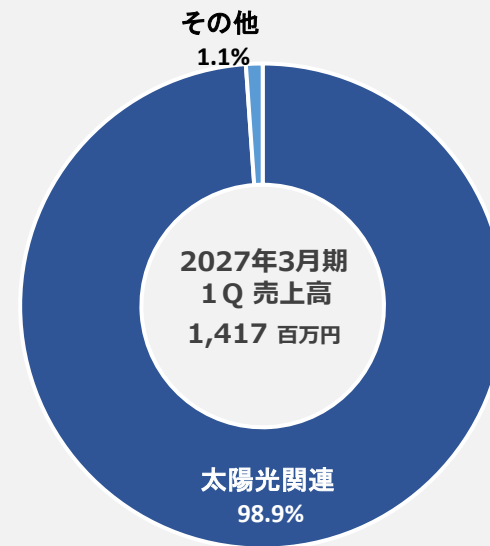
非FIT電源開発



O & M(メンテナンス)

WEBモニタリング(遠隔監視)から、法により義務化されている保守・点検まで。お客様の太陽光発電所の安心稼働をサポートします。

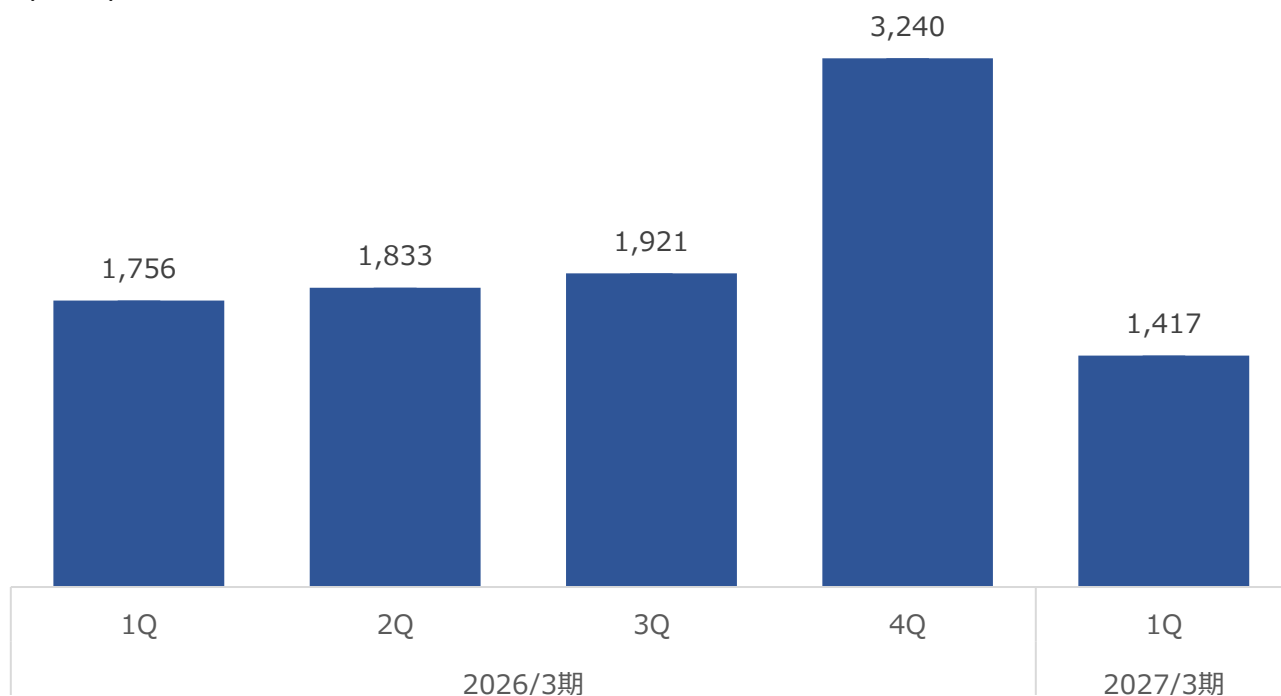
エネルギー領域 売上高構成比



エネルギー領域 | 売上高

法規制や要求水準の厳格化等による太陽光発電市場の環境変化や競争激化により、
前年同期△339百万円の減収

(百万円)

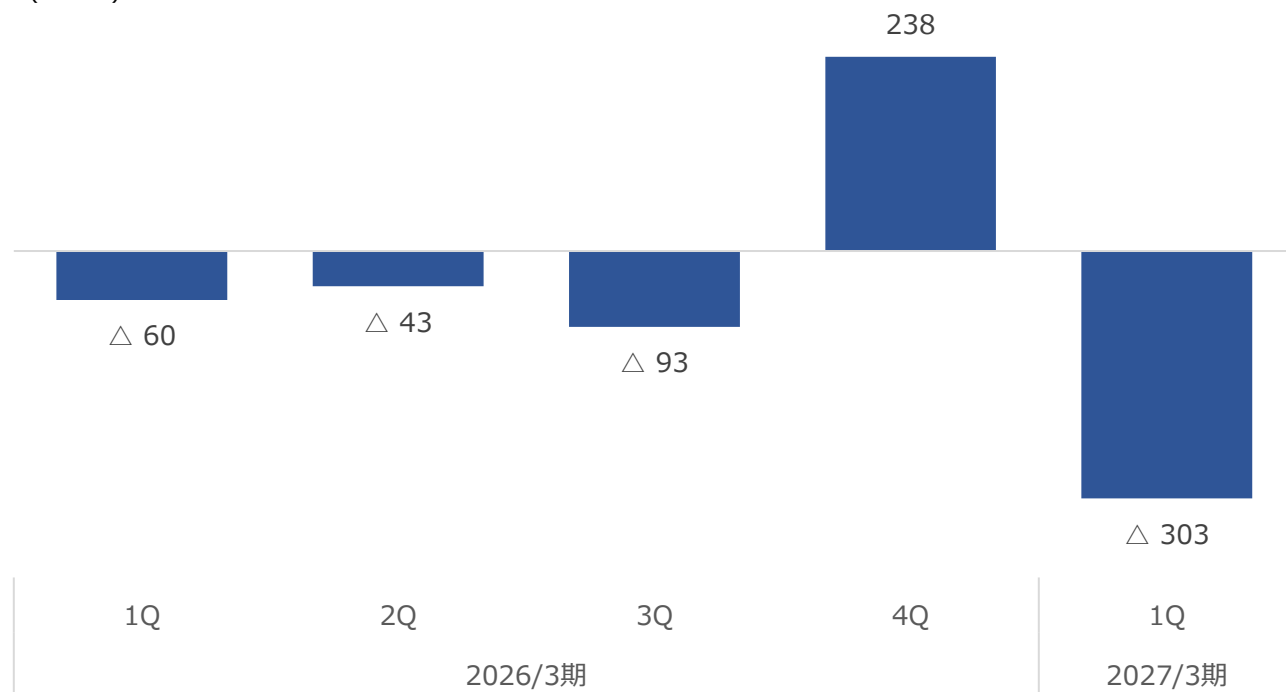


対前年同期比
△19.3%減

エネルギー領域 | 営業利益

案件ごとの採算性管理の徹底およびコストの見直し等による事業構造の転換を継続して実施しているものの、減収により固定費を吸収できず前年同期△242百万円の減益

(百万円)



対前年同期
△242 百万円

1. 2027年3月期1Q決算概況	P. 2
2. 2027年3月期1Qセグメント別概況	
①住環境領域	P. 11
②エネルギー領域	P. 16
③資源循環領域	P. 20
3. トピックス	P. 26
4. 2027年3月期 通期連結業績見通し	P. 31
5. 参考資料	P. 40



資源循環領域

資源を捨てずに循環させる

- 廃プラスチックの再資源化
- 廃液の浄化、再生燃料製造
- 廃プラ燃料による発電、電力小売
- 産業廃棄物の最終処分

サニックスグループでは、産業廃棄物系プラスチックの燃料化・リサイクルや、食品工場などから排出される廃液の浄化及びリサイクルなど、次世代の地球環境を考えた事業を通じ、循環型社会の構築に貢献します。

廃プラスチックの燃料化

産業廃棄物系プラスチックの燃料化を目的とした工場（プラスチック資源開発工場）を、全国各地に15工場展開。大きさや形がさまざまな廃プラスチックを細かく破碎することにより、石油・石炭などの代替燃料として再生。マテリアルリサイクルを本格的に開始しています。



プラスチック資源開発工場



プラスチック燃料

廃液の浄化処理・リサイクル

プラスチック資源開発工場で燃料化したプラスチックを、発電施設のエネルギー源として利用。石炭と比べて、発熱量が高く、CO2排出量や焼却灰発生量が少なく済むことから、環境負荷が低く、付加価値(非化石価値)の高い電気を供給します。



苫小牧発電所



最終処分場

廃液の浄化処理・リサイクル

外食産業の店舗や食品工場、その他雑廃水ピットなどから排出される有機廃液などを、大量に受け入れる体制を整えています。一連の処理工程により、高濃度の汚濁成分を99%以上除去する能力を有しています。また、油分や、脱水汚泥の燃料化リサイクルも推進しています。

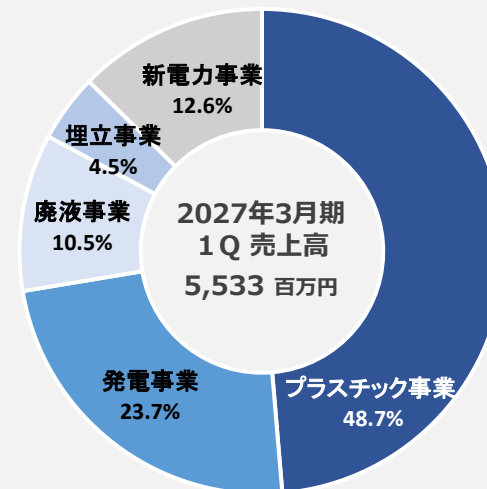


廃液処理工場



電力小売

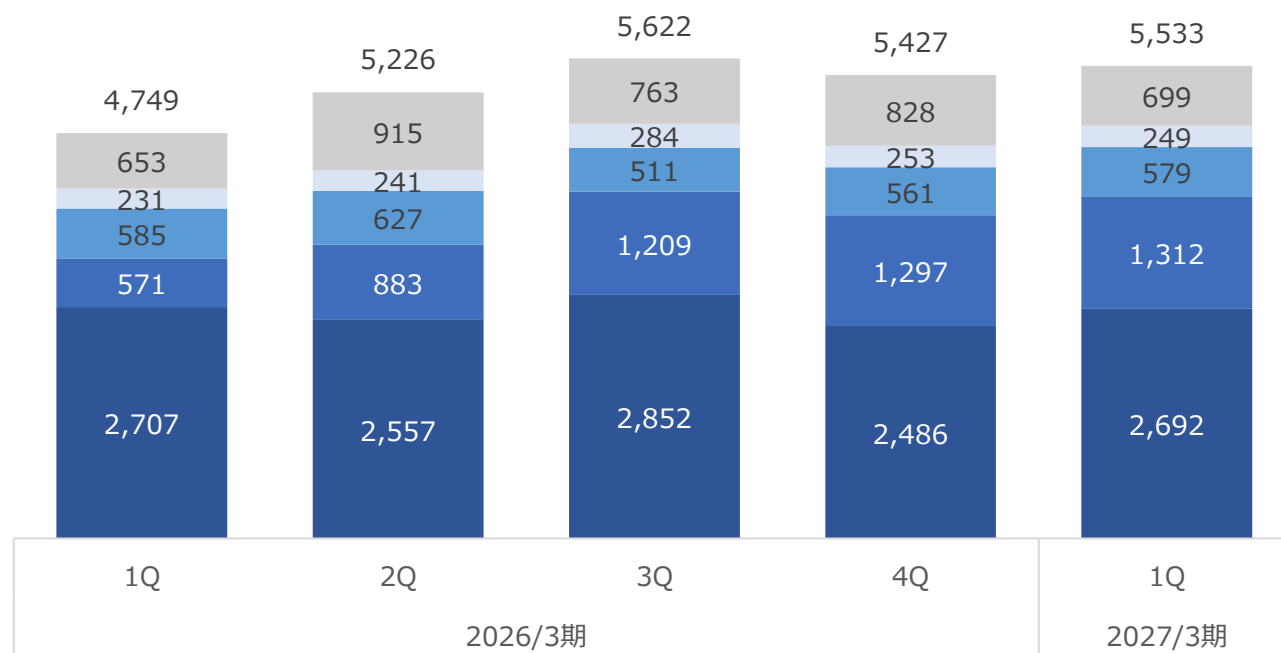
資源循環領域 売上高構成比



資源循環領域 | 売上高

プラスチック事業において、処理単価を引き上げたものの、中東情勢等の影響により受入量が減少したことから△14百万円とわずかに減収。一方で、発電所の安定稼働により発電事業が+741百万円と大きく増収となったことから、全体では前年同期+783百万円の増収

(百万円) ■プラスチック事業 ■発電事業 ■廃液処理事業 ■埋立処理事業 ■新電力事業



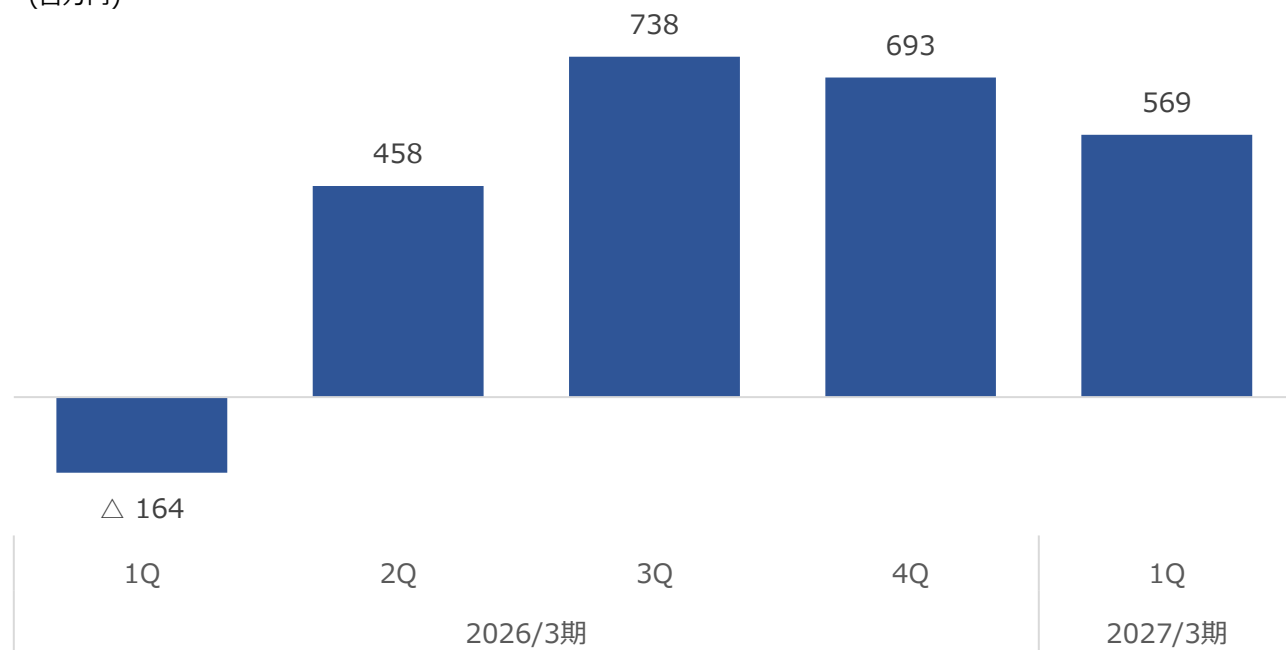
対前年同期比
+16.5%増

プラスチック事業 △0.5%減
 発電事業 +129.9%増
 廃液処理事業 △1.1%減
 埋立処理事業 +7.6%増
 新電力事業 +6.9%増

資源循環領域 | 営業利益

プラスチック事業において、中東情勢等の影響により消耗品費や輸送コストが上昇し、コスト負担増加。一方で、発電事業の増収による増益効果に加えて、前期に法定点検を実施したことおよび安定稼働により、修繕コストの減少（+205百万円）やプラ燃料在庫の改善（+405百万円）が寄与し増益。その結果、前年同期+734百万円の増益

(百万円)

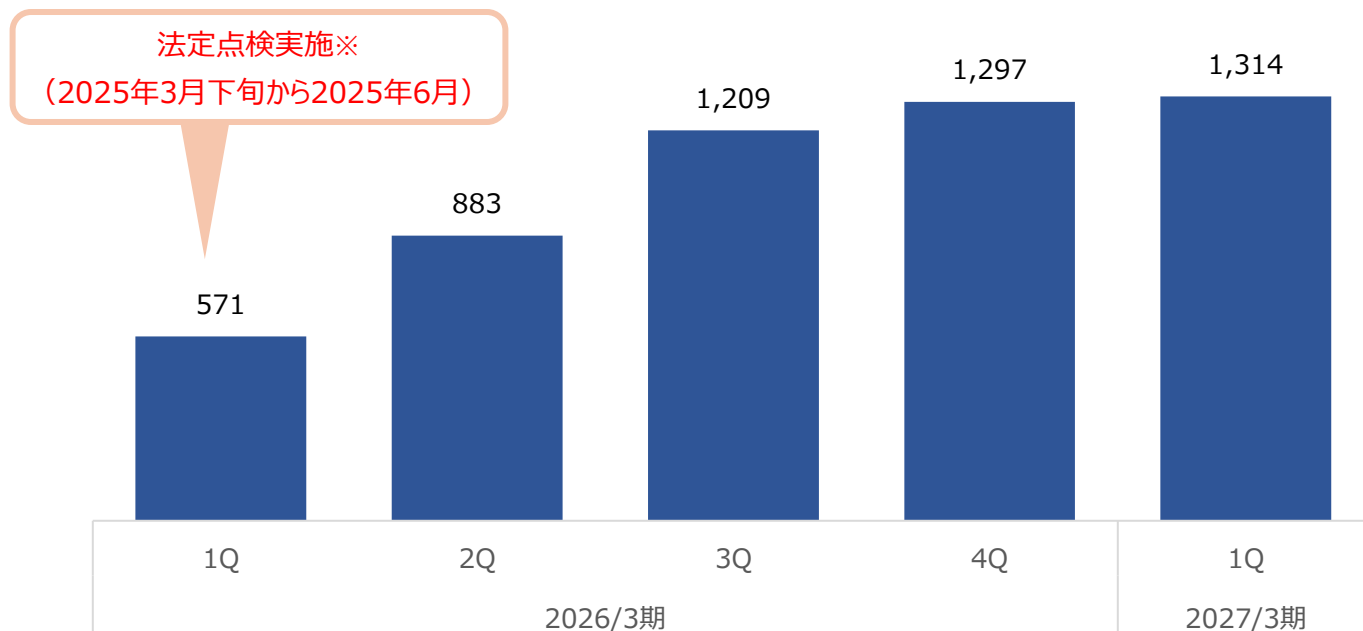


**対前年同期
+734 百万円**

資源循環領域 | 発電事業 売上高

2026年4月に実施した安定稼働に向けた対策工事が奏功し、安定稼働に寄与。
安定稼働により電力販売量が増加したことに加え、中東情勢等による影響により卸電力取引
市場への売電単価が上昇したことから、前年同期+741百万円の増収

(百万円)

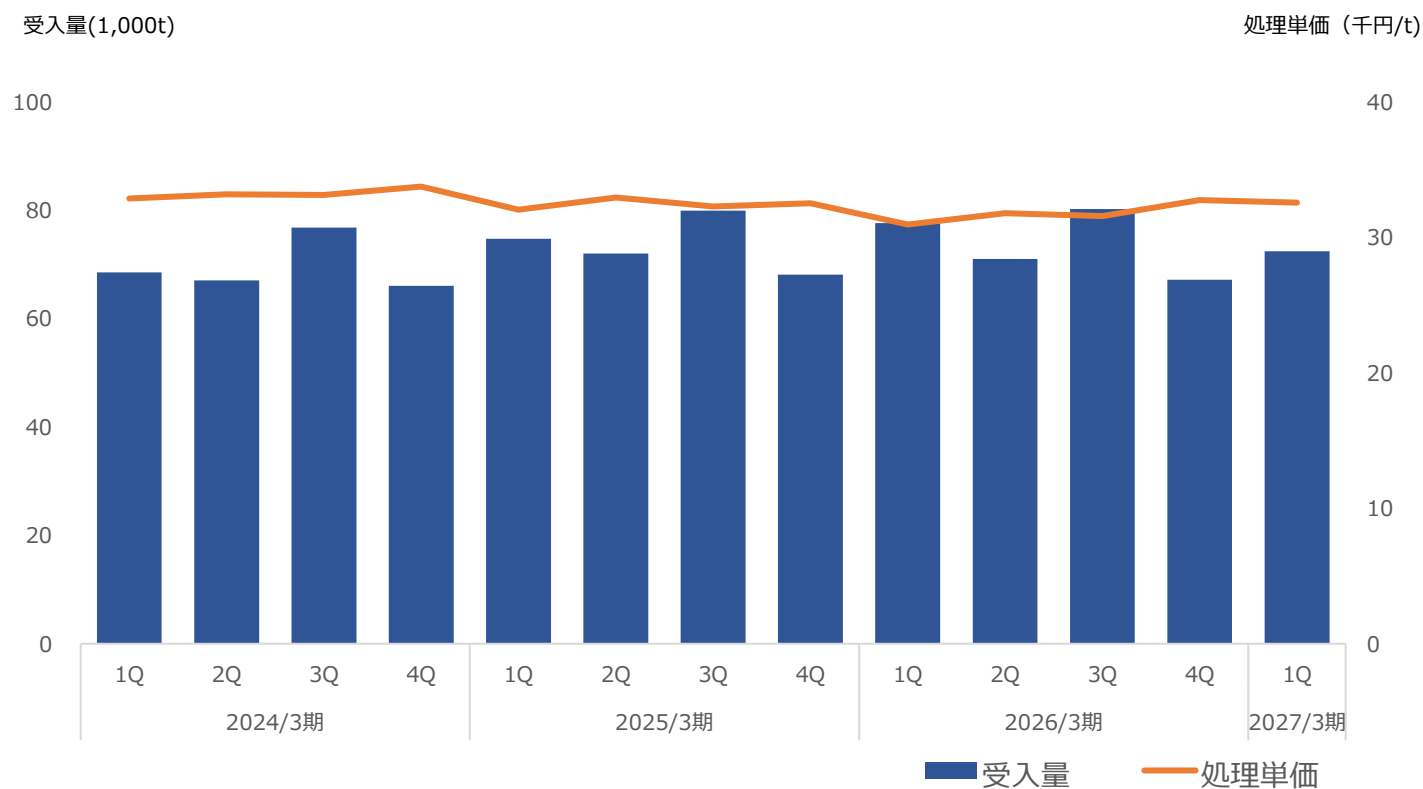


対前年同期比
+129.9%増

※ 将来的な安定稼働に向けて、
タービン・ボイラーの大規模な設備更新を実施

資源循環領域 | 廃プラスチックの受入状況

2026年度より処理単価の改定を実施



対前年同期比

受入量 $\triangle$ **6.6%減**

処理単価 **+ 5.2%増**

1. 2027年 3 月期 1 Q 決算概況	P. 2
2. 2027年 3 月期 1 Q セグメント別概況	
①住環境領域	P. 11
②エネルギー領域	P. 16
③資源循環領域	P. 20
3. トピックス	P. 26
4. 2027年 3 月期 通期連結業績見通し	P. 31
5. 参考資料	P. 40

住環境領域 | 新規エリアへ事業進出

住環境領域では、強固なアライアンスの構築および新規エリア（関東、東北、北海道）への進出により、市場・顧客の拡大を目指します。

成長戦略：アライアンス強化・市場開発（関東、東北、北海道）の方向性

1. アライアンス強化

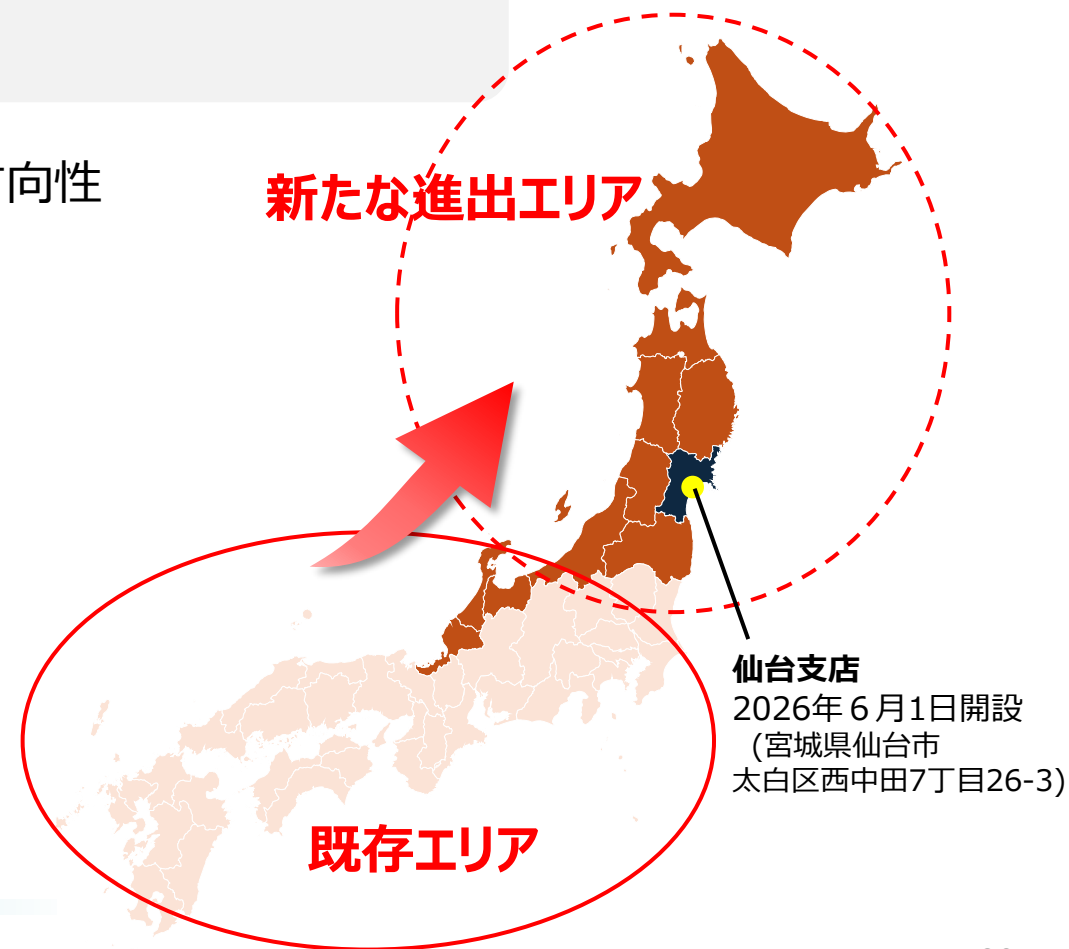
<手法>

- ・新規地場ビルダーとの提携拡大
- ・既存提携ビルダーの北、東北エリアの紹介拡大

2. 関東、東北、北海道への進出

<手法>

- ・拠点整備の推進
- ・M&Aによる同業集約（事業承継案件などの活用）
- ・地域のお困りごと解決



資源循環領域 | さらなる事業基盤の拡大に向けた取り組み

廃液処理事業では、汚泥燃料化およびSAFの原料製造に取り組んでおります。廃液処理から「再エネルギー化」を加速させ、さらなる事業拡大を目指します。

有機性汚泥を固形燃料化する製造ライン（第1期）を新設

飲食店の廃食油などからバイオマス燃料を抽出した後に残る有機性汚泥を固形燃料化する製造ラインを新設しました。なお、現在、許認可取得待ちです。（2026年上期 稼働開始予定）
許認可取得後、新製品「固形燃料REBON（リボン）」として販売予定です。
さらに、2029年3月期までに最大4ラインを導入する予定です。

固形燃料REBON(リボン)開発のリリース

[2026年5月13日 リリース▶](#)



固形燃料REBON(リボン)

汚泥・廃液を処理する施設
国内最大規模

ひびき工場（廃液処理工場）



固形燃料製造ライン（第1期）



資源循環領域 | さらなる事業基盤の拡大に向けた取り組み

プラスチック事業では、「環境エース一元くん」を軸とした廃棄物管理コンサル企業を目指します。

「環境エース一元くん」利用料 12ヵ月 無料キャンペーン開催中

環境エース一元くん（排出事業者向け廃棄物管理システム）

廃棄物の回収・処理の流れ、量やリサイクル率など、廃棄物のすべてを「見える化」し、適正で効率的な廃棄物管理業のあらゆるシーンをサポートするシステムです。



▼ 詳しくはこちら ▼



キャンペーン期間

2026年4月1日～2027年3月31日

「環境エース一元くん」の広告動画が
福岡広告協会賞において「銅賞」を受賞！



▼ 動画はこちら ▼



受賞名 : 第65回 福岡広告協会賞

フィルム広告15秒以内部門 銅賞

受賞対象 : 環境エース一元くん : 無限ファイル編

日経・東証 I Rフェア2026出展のお知らせ

当社は、2025年度に引き続き、日経・東証 I Rフェアへ出展します。
個人投資家を中心とした積極的なIR活動で市場との対話を深めることで、持続的な企業価値の向上を目指します。

日時：2026年8月28日(金)
～8月29日(土) 10:00～17:00

会場：東京ビッグサイト 南3・4ホール
(東京都江東区有明3-11-1)

入場：無料 (事前の来場者登録が必要となります)



詳しくはこちら

<https://event.nikkei.com/irfair>

**日経・東証
IRフェア2026**
8.28^金・29^土
**投資に役立つ
貴重な情報が満載!** **参加登録無料**

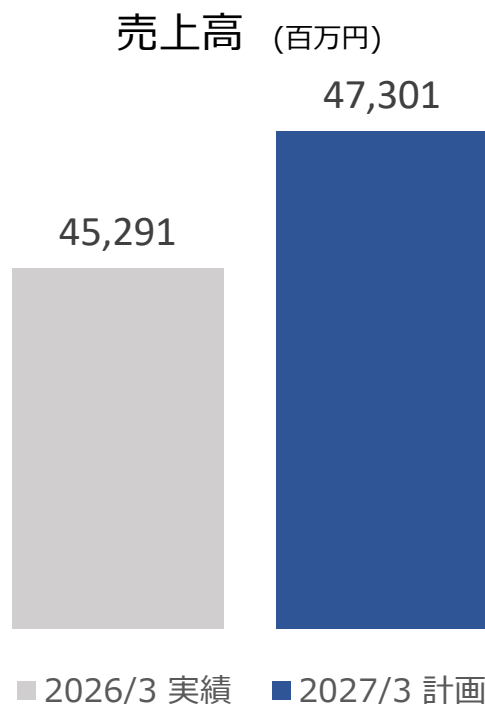
1. 2027年3月期1Q決算概況	P. 2
2. 2027年3月期1Qセグメント別概況	
①住環境領域	P. 11
②エネルギー領域	P. 16
③資源循環領域	P. 20
3. トピックス	P. 26
4. 2027年3月期 通期連結業績見通し	P. 31
5. 参考資料	P. 40

2027年3月期 通期連結業績見通し

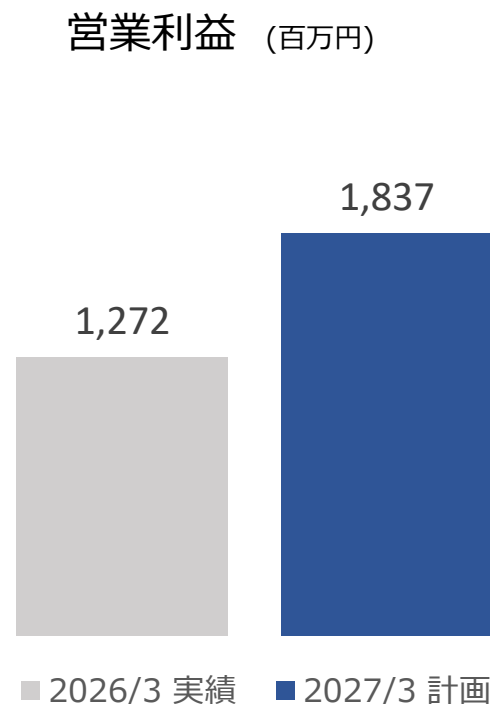
業績見通しについては、2026/5/15発表より変更はありません。

対前期比 増収・増益 見通し

売上高 +4.4%増



営業利益 +44.4%増



中東情勢による事業及び業績への影響

(前提)

▶ 中東情勢の影響により

- ①部材の高騰、②石油価格の高騰、③エチレン生産の減少によるプラ製品の減少、④サプライチェーンの混乱 が2026年12月までは継続すると想定
引き続き、直接・間接影響について注視していく

2027年3月期 通期連結業績への影響

一部資材や燃料費の増加等によるコスト増加 年間利益 △3億円 を見込む

2027年3月期 通期連結業績見通し

住環境領域	売上高 営業利益	15,688 百万円 1,956 百万円	対前期比 (+ 3.9 %) (+ 7.1 %)	住環境領域では、営業力および顧客基盤を活かし、既存エリアを強固な収益基盤として、ハウビルダー等の業務提携先拡大および関東・東北の新規エリアへの進出を目指します。また、人材強化やDX化、サービス拡充を図り、多様な住宅環境ニーズへの対応を図り、事業拡大を目指します。
エネルギー領域	売上高 営業利益	9,697 百万円 467 百万円	(+ 10.8 %) (+ 427 百万円)	エネルギー領域では、引き続き、採算性を重視した収益管理を徹底し、既存領域での収益性の向上を目指します。 また、太陽光発電事業だけでなく、太陽光周辺の電気工事業や低圧系統用蓄電池の事業化に取り組み、事業拡大を目指します。
資源循環領域	売上高 営業利益	21,455 百万円 2,146 百万円	(+ 2.0 %) (+ 24.4 %)	資源循環領域では、プラスチック事業の処理単価の改定を実施するとともに、前期にプラ燃料が一時的に在庫増となった状況を鑑みて、在庫の適正化を図り収益性の改善を目指します。また、発電事業では、2026年4月から安定稼働に向けた対策を実施し、安定稼働の実現を目指します。廃液事業では、汚泥燃料化や再生油BioからSAF原料化の実証を進め、さらなる事業拡大を目指します。
その他/本社費用	売上高 営業利益	459 百万円 △2,733 百万円	(+ 12.1 %) (△413 百万円)	中東情勢の影響により、一部資材や燃料費の増加等によるコスト増加を見込む。 各事業会社の成長と利益の最大化を図るとともに、次なる成長の柱となる新規事業の創出を積極的に推進 ※中東情勢による影響は、状況が極めて流動的かつ複数の要因が絡むため、各セグメントへの精緻な影響額の試算が困難であり、その他/本社費用に織り込んでおります。

2027年3月期 通期連結業績見通し

(百万円)	上半期				下半期				通期			
	前期実績	計画	差異	前年同期比	前期実績	計画	差異	前年同期比	前期実績	計画	差異	前期比
売上高	21,502	22,178	+675	103.1%	23,788	25,122	+1,333	105.6%	45,291	47,301	+2,009	104.4%
売上総利益	7,148	7,911	+763	110.7%	8,291	8,895	+603	107.3%	15,440	16,807	+1,367	108.9%
(売上高売上総利益率)	33.2%	35.7%			34.9%	35.4%			34.1%	35.5%		
営業利益	△ 19	461	+481	－	1,292	1,375	+83	106.4%	1,272	1,837	+564	144.4%
(売上高営業利益率)	－	2.1%			5.4%	5.5%			2.8%	3.9%		
経常利益	△ 407	335	+742	－	1,135	1,243	+107	109.5%	727	1,578	+850	216.8%
(売上高経常利益率)	－	1.5%			4.8%	4.9%			1.6%	3.3%		
親会社株主に帰属 する当期純利益	△ 613	217	+831	－	1,035	784	△ 250	75.8%	421	1,002	+580	237.6%
(売上高当期純利益率)	－	1.0%			4.4%	3.1%			0.9%	2.1%		

2027年3月期 通期連結業績見通し

(百万円)	上半期				下半期				通期			
	前期実績	計画	差異	前年同期比	前期実績	計画	差異	前年同期比	前期実績	計画	差異	前期比
売上高	21,502	22,178	+ 675	103.1%	23,788	25,122	+ 1,333	105.6%	45,291	47,301	+ 2,009	104.4%
住環境領域	7,742	7,943	+ 201	102.6%	7,362	7,745	+ 383	105.2%	15,104	15,688	+ 584	103.9%
エネルギー領域	3,590	3,531	△ 58	98.4%	5,162	6,165	+ 1,003	119.4%	8,752	9,697	+ 945	110.8%
資源循環領域	9,975	10,492	+ 516	105.2%	11,050	10,963	△ 87	99.2%	21,025	21,455	+ 429	102.0%
その他	195	211	+ 16	108.2%	214	248	+ 33	115.7%	409	459	+ 49	112.1%
営業利益	△ 19	461	+ 481	—	1,292	1,375	+ 83	106.4%	1,272	1,837	+ 564	144.4%
住環境領域	1,011	1,092	+ 81	108.0%	814	863	+ 49	106.1%	1,825	1,956	+ 130	107.1%
エネルギー領域	△ 103	△ 178	△ 74	—	144	646	+ 501	446.5%	40	467	+ 427	—
資源循環領域	293	937	+ 644	319.3%	1,432	1,208	△ 223	84.4%	1,726	2,146	+ 420	124.4%
その他 / 全社費用	△ 1,221	△ 1,390	△ 169	—	△ 1,098	△ 1,342	△ 244	—	△ 2,319	△ 2,733	△ 413	—

通期連結業績見通し | セグメント別見通し【住環境領域】

●前期比 増収・増益 見通し

住環境領域では、営業力および顧客基盤を活かし、既存エリアを強固な収益基盤としつつ、ハウズビルダー等の業務提携先拡大および関東・東北の新規エリアへの進出を目指します。また、人材強化やDX化、サービス拡充を図り、多様な住宅環境ニーズへの対応を図り、事業拡大を目指します。

(百万円)	上半期				下半期				通期			
	前期実績	計画	差異	前年同期比	前期実績	計画	差異	前年同期比	前期実績	計画	差異	前期比
売上高	7,742	7,943	+ 201	102.6%	7,362	7,745	+ 383	105.2%	15,104	15,688	+ 584	103.9%
売上原価	3,336	3,347	+ 10	100.3%	3,273	3,410	+ 136	104.2%	6,610	6,757	+ 147	102.2%
うち、材料費	965	988	+ 22	102.4%	955	1,015	+ 60	106.3%	1,921	2,004	+ 83	104.3%
うち、労務費	1,171	1,210	+ 38	103.3%	1,164	1,225	+ 61	105.3%	2,335	2,435	+ 99	104.3%
売上総利益	4,405	4,596	+ 190	104.3%	4,088	4,334	+ 246	106.0%	8,494	8,930	+ 436	105.1%
販売費・一般管理費	3,394	3,503	+ 109	103.2%	3,274	3,471	+ 196	106.0%	6,668	6,974	+ 306	104.6%
うち、人件費	2,233	2,285	+ 52	102.3%	2,227	2,276	+ 49	102.2%	4,460	4,561	+ 101	102.3%
営業利益	1,011	1,092	+ 81	108.0%	814	863	+ 49	106.1%	1,825	1,956	+ 130	107.1%

通期連結業績見通し | セグメント別見通し【エネルギー領域】

●前期比 増収・増益 見通し

エネルギー領域では、引き続き、採算性を重視した収益管理を徹底し、既存領域での収益性向上を目指します。
また、太陽光発電事業だけでなく、太陽光周辺の電気工事業や低圧系統用蓄電池の事業化に取り組み事業拡大を目指します。

(百万円)	上半期				下半期				通期			
	前期実績	計画	差異	前年同期比	前期実績	計画	差異	前年同期比	前期実績	計画	差異	前期比
売上高	3,590	3,531	△ 58	98.4%	5,162	6,165	+ 1,003	119.4%	8,752	9,697	+ 945	110.8%
売上原価	2,626	2,606	△ 19	99.2%	3,881	4,319	+ 437	111.3%	6,507	6,925	+ 417	106.4%
うち、材料費	1,438	1,311	△ 127	91.2%	1,784	2,428	+ 643	136.1%	3,222	3,739	+ 516	116.0%
うち、労務費	314	327	+ 13	104.3%	349	361	+ 11	103.3%	664	689	+ 25	103.8%
売上総利益	963	925	△ 38	96.0%	1,280	1,846	+ 566	144.2%	2,244	2,772	+ 527	123.5%
販売費・一般管理費	1,067	1,103	+ 35	103.4%	1,135	1,200	+ 64	105.7%	2,203	2,304	+ 100	104.6%
うち、人件費	635	661	+ 26	104.1%	652	740	+ 87	113.4%	1,288	1,401	+ 113	108.8%
営業利益	△ 103	△ 178	△ 74	—	144	646	+ 501	446.5%	40	467	+ 427	—

通期連結業績見通し | セグメント別見通し【資源循環領域】

●前期比 増収・増益 見通し

資源循環領域では、プラスチック事業の処理単価の改定を実施するとともに、前期にプラ燃料が一時的に在庫増となった状況を鑑みて、在庫の適正化を図り収益性の改善を目指します。また、発電事業では、2026年4月から安定稼働に向けた対策を実施し、安定稼働の実現を目指します。廃液事業では、汚泥燃料化（許認可取得後稼働予定）や再生油BioからSAF原料化の実証を進め、さらなる事業拡大を目指します。

(百万円)	上半期				下半期				通期			
	前期実績	計画	差異	前年同期比	前期実績	計画	差異	前年同期比	前期実績	計画	差異	前期比
売上高	9,975	10,492	+ 516	105.2%	11,050	10,963	△ 87	99.2%	21,025	21,455	+ 429	102.0%
プラスチック事業	5,264	5,503	+ 239	104.5%	5,339	5,647	+ 307	105.8%	10,603	11,150	+ 547	105.2%
発電事業	1,454	2,050	+ 595	140.9%	2,506	2,316	△ 190	92.4%	3,961	4,367	+ 405	110.2%
廃液事業	1,213	1,174	△ 38	96.8%	1,073	1,177	+ 103	109.7%	2,287	2,352	+ 64	102.8%
埋立事業	473	475	+ 1	100.3%	538	523	△ 15	97.1%	1,012	998	△ 14	98.6%
新電力事業	1,569	1,288	△ 281	82.1%	1,591	1,298	△ 293	81.6%	3,161	2,587	△ 574	81.8%
売上原価	8,275	8,171	△ 103	98.8%	8,209	8,355	+ 146	101.8%	16,484	16,527	+ 43	100.3%
うち、労務費	1,040	1,091	+ 51	105.0%	1,050	1,101	+ 51	104.9%	2,090	2,193	+ 102	104.9%
売上総利益	1,700	2,320	+ 619	136.4%	2,841	2,607	△ 233	91.8%	4,541	4,927	+ 386	108.5%
販売費・一般管理費	1,406	1,382	△ 24	98.3%	1,408	1,398	△ 10	99.3%	2,815	2,780	△ 34	98.8%
うち、人件費	772	857	+ 85	111.0%	843	861	+ 17	102.1%	1,616	1,718	+ 102	106.4%
営業利益	293	937	+ 644	319.3%	1,432	1,208	△ 223	84.4%	1,726	2,146	+ 420	124.4%

1. 2027年3月期1Q決算概況	P. 2
2. 2027年3月期1Qセグメント別概況	
①住環境領域	P. 11
②エネルギー領域	P. 16
③資源循環領域	P. 20
3. トピックス	P. 26
4. 2027年3月期 通期連結業績見通し	P. 31
5. 参考資料	P. 40

2027年3月期1Q 決算概況

	2026/3期 1Q 実績	2027/3期 1Q 実績	前年同期差異	前年同期比	2027/3期 上期 計画	進捗率
(百万円)						
売上高	10,531	11,127	+ 595	105.7%	22,178	50.2%
売上総利益 (売上高売上総利益率)	3,267 31.0%	3,993 35.9%	+ 725	122.2%	7,911 35.7%	50.5%
営業利益 (売上高営業利益率)	△ 343 —	339 3.0%	+ 682	—	461 2.1%	73.4%
経常利益 (売上高経常利益率)	△ 539 —	280 2.5%	+ 819	—	335 1.5%	83.7%
親会社株主に帰属 する四半期純利益 (四半期純利益率)	△ 640 —	126 1.1%	+ 766	—	217 1.0%	58.2%

セグメント別概況 | 住環境領域

	2026/3期 1Q 実績	2027/3期 1Q 実績	前年同期差異	前年同期比	2027/3期 上期 計画	進捗率
(百万円)						
売上高	3,941	4,092	+ 150	103.8%	7,943	51.5%
売上原価	1,671	1,651	△ 19	98.8%	3,347	49.3%
うち、材料費	480	483	+ 3	100.7%	988	48.9%
うち、労務費	593	577	△ 15	97.3%	1,210	47.7%
売上総利益	2,270	2,440	+ 170	107.5%	4,596	53.1%
販売費・一般管理費	1,723	1,714	△ 8	99.5%	3,503	48.9%
うち、人件費	1,130	1,095	△ 34	97.0%	2,285	47.9%
営業利益	547	726	+ 178	132.7%	1,092	66.5%

セグメント別概況 | エネルギー領域

	2026/3期 1Q 実績	2027/3期 1Q 実績	前年同期差異	前年同期比	2027/3期 上期 計画	進捗率
(百万円)						
売上高	1,756	1,417	△ 339	80.7%	3,531	40.1%
売上原価	1,304	1,183	△ 120	90.7%	2,606	45.4%
うち、材料費	709	525	△ 184	74.0%	1,311	40.0%
うち、労務費	146	144	△ 1	99.2%	327	44.2%
売上総利益	452	233	△ 218	51.6%	925	25.2%
販売費・一般管理費	513	536	+ 23	104.6%	1,103	48.6%
うち、人件費	320	305	△ 15	95.2%	661	46.2%
営業利益	△ 60	△ 303	△ 242	—	△ 178	—

セグメント別概況 | 資源循環領域

(百万円)	2026/3期 1Q 実績	2027/3期 1Q 実績	前年同期差異	前年同期比	2027/3期 上期 計画	進捗率
売 上 高	4,749	5,533	+ 783	116.5%	10,492	52.7%
プ ラ ス チ ッ ク 事 業	2,707	2,692	△ 14	99.5%	5,503	48.9%
発 電 事 業	571	1,312	+ 741	229.9%	2,050	64.0%
廃 液 処 理 事 業	585	579	△ 6	98.9%	1,174	49.3%
埋 立 処 理 事 業	231	249	+ 17	107.6%	475	52.5%
新 電 力 事 業	653	699	+ 45	106.9%	1,288	54.3%
売 上 原 価	4,235	4,254	+ 18	100.4%	8,171	52.1%
うち、労務費	526	505	△ 21	96.0%	1,091	46.3%
売 上 総 利 益	513	1,279	+ 765	248.9%	2,320	55.1%
販 売 費 ・ 一 般 管 理 費	678	709	+ 30	104.5%	1,382	51.3%
うち、人件費	390	420	+ 30	107.9%	857	49.1%
営 業 利 益	△ 164	569	+ 734	—	937	60.8%

財務状況

単位:百万円		2026/3期 期末	2027/3期 1Q	前 期 末	
				差異	前期比
	流動資産	15,102	14,593	△ 508	96.6%
	固定資産	24,921	24,937	+ 15	100.1%
	資産合計	40,024	39,531	△ 492	98.8%
	流動負債	18,380	18,637	+ 257	101.4%
	固定負債	10,637	9,943	△ 694	93.5%
	負債合計	29,018	28,581	△ 436	98.5%
	純資産合計	11,006	10,950	△ 55	99.5%
	負債純資産合計	40,024	39,531	△ 492	98.8%
自己資本比率		27.5%	27.7%		

設備投資・減価償却費 実績

	2026/3期 1Q 実績	2027/3期 1Q 実績
(百万円)		
住環境領域	11	86
エネルギー領域	60	51
資源循環領域	1,898	317
その他	75	11
設備投資合計	2,046	466
減 価 償 却 費	410	455

【主な設備投資】

【資源循環領域】

- 廃プラスチック処理設備にかかる投資 : 216百万円
- 苫小牧発電所にかかる投資 : 93百万円

セグメント別 人員・拠点数

		2026/3期 期末		2027/3期 1Q		人員増減
		拠点数	人員数	拠点数	人員数	
	住環境領域	71	1,041	72	1,056	+ 15
	エネルギー領域	27	284	27	290	+ 6
	資源循環領域	19	528	19	543	+ 15
	その他/ホールディングス	—	180	—	168	△12
合 計		—	2,033	—	2,057	+24

※上記拠点数には、同一拠点を含む

※資源循環領域は、発電所 1 拠点、最終処分場 1 拠点含む

重要経営指標

		2022/3期 実績	2023/3期 実績	2024/3期 実績	2025/3期 実績	2026/3期 実績	2027/3期 計画
自己資本当期純利益率	ROE	—	24.8%	36.1%	15.6%	4.0%	8.7%
総資産経常利益率	ROA	—	4.5%	9.8%	5.3%	1.9%	3.9%
自己資本比率		13.5%	18.0%	24.1%	27.7%	27.5%	29.0%
投下資本利益率	ROIC	—	8.4%	14.4%	8.0%	2.9%	5.0%
設備投資（百万円）		2,776	1,566	2,743	4,053	3,922	3,148
減価償却費（百万円）		1,509	1,889	1,654	1,701	1,877	2,362

【免責事項】

- ・ 本資料には、将来の業績予測に関する記述が含まれています。こうした将来の業績予測に関する記述は、将来業績を保証することを意図するものではなく、一定の前提条件と経営陣の現時点で入手可能な情報による判断に基づくものです。従いまして、以下の要因をはじめとする様々な要因により、将来時点における実際の収益及び業績は、業績予測に関する記述と大きく異なる可能性があります。
- ・ 新型コロナウイルス感染状況及び政府・自治体の対応、日本の景気動向、「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」の動向、廃棄物（特に廃プラスチック類）の取扱いに関わる動向、他の業者との競争環境、技術革新、規制環境、法律環境及びその他の当社の予測を超える様々な要因。
- ・ 本資料は当社が発行する証券への投資を勧誘することを企図した資料ではありません。本資料に含まれる情報に基づいて発生した損失・債務に関して、当社は一切の責任を負わない旨をご了承下さい。

＜注意事項＞

- ・ 数値については、単位未満を切り捨てて表示しております。
- ・ 営業利益、経常利益、当期純利益の”△”表記は、それぞれ営業損失、経常損失、当期純損失を表します。
- ・ 比率がマイナスあるいは1000%を超える値の場合「－」で表示しております。
- ・ セグメント間の内部売上高調整額を相殺した金額にて記載しております。

